

令和6年度 保育所の自己評価表

<評価について>

評価にをするにあたっては、以下のような基準で評価を行っています。

A : 大変良い B : 良い C : 一部検討を要する D : 改善を要する

【第1章】総則

①保育所保育に関する基本原則

	評価項目	評価
保育所の役割	① 子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解している	A
	② 子どもの人格尊重を意識して保育を行っている	A
目標	① 社会福祉法人和孝福祉会の法人理念や保育目標を年度の初めに職員で確認している	B
	② 社会福祉法人和孝福祉会の法人理念や保育目標を職員や保護者などに見やすい場所に閲覧できるよう にしている	A
保育の方法	① こどもひとり一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うよう心掛けている	A
	② 子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を心がけている	A
環境	① 健康的かつ衛生的に過ごせるようにしている	A
	② 子どもの遊びが豊かに展開できるような環境づくりをしている	A
社会的責任	① 子育て支援に対し、地域に貢献できるような努力をしている	A
	② 個人情報は適切に扱い、保護者の苦情に対して解決を図るように努めている	A

②養護に関する基本事項

養護の理念	① 養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている	A
	② 「養護」は生命の保持と情緒の安定で構成され、「教育」は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している	B
情緒の安定	① ひとり一人の健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる	A
	② 生理的欲求が十分に満たされるような保育展開をしている	A

③保育の評価反省

全体的な 計画の作成	① 全体的な計画の作成には、職員が参加している	B
	② 長期的な見通しを持った計画をたて、職員で共有している	B
指導計画 の作成	① 日常の保育を通して、子どもの思いやりや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている	B
	② 各年齢のこどもの発達状況に配慮した指導計画となっている	A
	③ 日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している	A
	④ 3才未満児は、ひとりひとりのこどもの発達状況、個別計画、生活状況について作成している	A
	⑤ 子どもが主体的に活動できるよう環境設定している	A
	⑥ 長時間にわたる保育のための環境整備がされ、保育の内容や方法に配慮している	A
指導計画の展開	① 子どもの実態や状況の変化に応じて見直しや改善を行っている	B
評価改善	① 園全体としての評価を行い、全職員の共通理解のもと、改善に努めている	B

④幼児教育を行う施設として共有する

	評価項目	評価
資質能力	① 育みたい資質、能力を理化している	A
	② 長期的な見通しをもった計画をたて、年齢ごとに必要な経験の機会を与えていている	A
姿	① 「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を理解し計画をたて保育にあたっている	A

【第2章】保育の内容

①乳児保育に関するねらい及び内容

基本的事項・ねらい及び内容 保育の実践に関する配慮事項	① 離乳食に関しては、家庭とも連携しひとりひとりの子どもの状況に配慮して行っている	A
	② ひとり一人の生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるように静かな空間が確保されている	A
	③ 特定の保育士との継続的な関わりが保てるよう配慮している。	A
	④ 午睡中は体を仰向けにすることを意識して、体温、顔色、呼吸の安全チェックをしている	A
	⑤ 生活や遊びの中で、音・形・色・手触りなどに気づかせてさまざまなものに触れさせている	A
	⑥ 上体を支え足の動きを促すなど、遊びを通して身体発達の援助を行っている	A
	⑦ オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め対応している 日課に反映している	A
	⑧ 発声や啞語等を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている	A
	⑨ 誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している	A

②1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容

健康	① 生活リズムについては、ひとりひとりの子どもの状態に合わせて対応している	A
	② 走る・跳ぶ、登る、押す、引っ張るなどの全身を使う遊びを取り入れている	B
	③ 楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている	A
	④ 身の回りを清潔に保つ心地よさを感じ、その習慣が少しずつ身に着くように援助している	A
	⑤ 子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している	A
	⑥ ひとりひとりの排泄状況に応じた配慮をしている	A
人間関係	① 保育士等との安心したかかわりの中で、園生活を送れるようにしている。	A
	② 他の子どもとの関わり方を少しずつ身に付けられるよう仲立ちをしている	A
	③ 自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している	A
環境	① 玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達に合った物を選び使用させている	A
	② 積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している	B
	③ 見る、聞く、触れるなど感覚の働きを豊かにしている	A
言葉	① 楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやりとりができるようにしている	A
	② 絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている	B
表現	① 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しませている	A
	② 音楽、リズムなどに親しみ、わらべうたや全身を使う遊びを取り入れている	B
	③ 子どもの表現をしっかり受け止め、共感している	B
保育の実施に関する配慮事項	① 体の状態、機嫌、食欲、など日常の状態の観察を十分に行うことで感染症を予防している	A
	② 事故防止に努めながら様々な遊びを取り入れている	A
	③ 進級などで保育士が変わるのは、子どもの発達に留意し、職員間で協力対応している	A

③3歳以上児の保育に関するねらい及び内容

	評価項目	評価
健康	① 生活に必要な基本的な習慣や態度が身に着く様にしている	A
	② 食べる喜びや楽しさを味わいながら食べ物への興味や関心を持てるようにしている	A
	③ 十分に体を動かす気持ち良さを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つように援助している	A
	④ 園内外の危険な場所を知り、安全に気を付けて遊ぶように働きかけている	A
人間関係	① 友達と共に目的を見つけたり、遊びと一緒に工夫、協力して共に達成感が味わえるよう働きかけている	A
	② 良い事や悪い事があることに気づき、考えながら行動できるように援助している	A
	③ 友達と生活する中できまりの大切さに気づき守れるように配慮している	A
	④ 生活や遊びの中で意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉掛けや援助をしている	A
	⑤ 身近な友達との関りを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している	A
環境	① 園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている	A
	② 伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている	A
	③ 自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている	A
言葉	① 人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身に付けさせている	A
	② 絵本や紙芝居を通して、物語の楽しさや言葉のおもしろさに気づくよう心がけている	A
	③ 子どもが自分の体験や要求を自分なりに表現できるように配慮している	A
表現	① わらべうたなどを通して、音楽の楽しさを味わう機会を作っている	A
	② ひとり一人の子どもの表現の過程を大切にし、自己表現を楽しめるよう心がけている	A
配慮事項	① 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を理解し保育にあたっている	A

④保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に 関わる配慮 事項	ひとりひとりの子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助して いる	A
	② 子どもが安心感を持ち、生活できるよう配慮している	A
小学校との 連携	① 小学校との意見交換や合同の研究の機会などを設けて情報共有や連携を図っている	A
	② 子どもにおける情報共有に関して保育所児童保育要録を作成している	A
地域社会 との連携	① 地域の子育て支援について努力し、園の行事参加や園庭開放などの実施をしている	A
	② ボランティア、体験保育の人々を受け入れている	B

【第3章】健康及び安全

①子どもの健康支援

健康発達	① 感染症発症時に、発生状況や感染症予防策について保護者に通知している	A
	② 不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携し対応している	A
健康増進	① 健康診断と歯科検診予防策について保護者や職員に通知している	A
	② 子どもの健康情報を共有し、子どもの既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、全ての職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	A
疾病等への 対応	① アレルギー疾患、慢性疾患を持つ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	A
	② アレルギー疾患を持つ子どもに対し、栄養士、調理員と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A

②食育の推進

	評価項目	評価
保育所の特性を生かした食育	① 乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている	A
	② 乳幼児に身につけておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている	A
	③ 園管理アプリにて実施給食の写真を配信し、保護者へ知らせている	A
環境整備	① 調理員、栄養士、保護者と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている	A
	② 子どもが栽培、収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心がけている	A

③環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び衛生管理	① 園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地よく過ごせるように配慮している	A
	② 生活の場面にあった保育士の声、音などに配慮している	A
	③ 園内に子ども達が季節感を味わえるような工夫をしている	A
	④ 子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光に配慮している	A
事故防止及び安全対策	① ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている	A
	② 睡眠中、水遊び中、食事などの場面で重大事故が起こしやすいことを認識し、事故防止に努めている	A
	③ 外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる	B

④災害への備え

安全確認	① 消火器、火災受信機、配電盤の場所が分かり、操作方法を知っている	A
	② 施設の安全点検を行い、改善している	A
避難への備え	① 様々な災害を想定した避難訓練を行っている	B
	② 保護者との連携体制や引き渡し方法が確認されている	B
連携	① 地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている	A

【第4章】子育て支援

①保育所における子育て支援に関する基本事項

支援と留意事項	① 保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている	A
	② 保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるように心がけている	A

②保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	① 送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行っている	A
	② 家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている	A
	③ 園だよりを定期的に発行している	A
	④ あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている	A

③地域の保護者に対する子育て支援

地域の子育て支援	① 地域における子育て支援を実施し、地域の子育てニーズを把握するよう努めている	A
	② 子育て支援の情報提供をしている	A
連携	① 子どもの医療や保健に関する問題について、連携、相談する外部の連携機関を把握している	B

【第5章】職員の資質向上

①職員の資質向上に関する基本事項

	評価項目	評価
保育所の職員に求められる専門性	① 相手の立場にたった挨拶、電話、来客対応ができている	B
	② 自己の健康管理ができている	B
	③ 保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている	B
	④ 保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守らている	A
資質の向上に向けた組織的な取り組み	① 業務遂行にあたって、正確、迅速かつ報告・連絡・相談を実施している	B
	② 公平に人の話を聞いたり、話ができ、正確に伝達できている	B
	③ 問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している	A

②職員の研修等

研修の活用	① 園内研修を行っている	A
	② 各職員について、適切な研修機会の確保を行っている	B

【園全体の評価】

全体的な計画・年間指導計画に基づいて月案・週日案が作成され、日々の保育に生かされていたが、雨が続く、暑い日が長期的に続くなど予想外の状況に合わせて計画を変更していくことの必要性を保育士全員が理解することが少し足りなかったと思います。個々の子どもの成長発達に合わせて、フリーの保育士が手厚く応援に行ける環境が整い、発達に課題がある子ども達も落ち着いた生活ができている。外遊びができない夏の時期が長く、園内で十分に遊べる環境を整える課題について努力したが、粗大遊びの量などはもう少し増やすことが来年度への課題となりました。園内研修は専門講師を中心に職員にも負担がからない様な実施ができたが、年間で計画的に時期を決めるなどの工夫が必要だと考えました。食育活動も園庭の自然を利用したものから、絵本からインスピレーションをもらうものまでを計画し、子ども達にとって良い経験ができたが、幼児クラスだけでなく乳児クラスも体験型の食育体験を来年度は実施を増やしていきたいと思います。長時間保育の中、必要な保育準備をすることが難しい事が多々ありました。できるだけ保育準備が円滑にできるようなサポートを園としてもしていきたいと思います。